

令和4年度 第4回 金指小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年2月17日（金） 13時15分から15時45分まで
- 2 開催場所 金指小学校 さかみちホール
- 3 出席委員 宮澤 勝實、青嶋 伸介、野沢 英年、内山 康子、巨島 信慶、
菊地 幸江、黒瀬 憲太郎
- 4 欠席委員 飯田 博乃
- 5 学 校 山村 健一（校長）、縣 倫子（教頭）、野中 律宏（CS担当教員）
入手 佑香（CSディレクター）
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 入手 佑香
- 8 議長選出

司会から、議長の選出について黒瀬委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

9 協議事項

- (1) 学校や子供の様子について
- (2) 令和4年度学校評価について
- (3) 令和5年度の学校運営の基本方針について
- (4) 学校運営協議会の自己評価について

10 会議記録

司会の縣教頭から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校や子供の様子について

- ・ ポイントウォークの開催時期はもう少し暖かい時期がよい。コース途中で、班が重ならないように、班数を減らし、班の人数を増やす。A、Bコースを分けずに一方通行にしてはどうか。（黒瀬委員）
- ・ 2回目のポイントウォークだったので、ボランティアの方もその場に応じて臨機応変に対応することができた。児童は上級生が下級生に対して声掛けするなど、良い成果があった。来年度に向けて課題や改善点を把握してより良いポイントウォークになればよい。（宮澤委員）
- ・ 今年度の運動会は、子供たちがのびのびして新鮮な印象を受けた。また、「金指サミット」や学習成果発表会では、子供たちと同じレベルで話をしたことで、子供たちの中に一歩入れたように感じた。伸び伸びした印象は、今後期待ができ、金指小の良さを感じる。（内山委員）
- ・ 6年生の総合「金指サミット」に参加した際に、子供たちの率直な意見が聞けてとて

も勉強になった。理想的な学校との関わりを感じた。(宮澤委員)

- ・ 金指小学校の子供たちは素直で大人しい印象がある。(青嶋委員)
- ・ 年度当初に運営委員と教職員が顔合わせする機会があると、先生の名前と顔が一致する。そうすることにより学校に親近感が沸き、学校に来やすくなる。(青嶋委員)
- ・ 学習成果発表会について、各学年ともに個人の発表では、個性が発揮されており素晴らしかった。中でも、6年生の発表は対話形式で話をするのができ、より親近感と個性を感じ、6年生らしくたくましさも感じた。(野沢委員)
- ・ コロナ禍であった初年度よりも笑顔が非常に多かった。学校で密を避けた教育活動は難しいが、子供たちは人との距離があっても繋がることができ、心が通い合う大切さを自然に学ぶ姿にこちらも学ぶことができた。(巨島委員)
- ・ 子供たちは挨拶してくれるが、もっと元気よく挨拶ができるのではないかと。挨拶が人との触れ合うきっかけになる。(黒瀬委員)
- ・ 学習成果発表会は、子供たちがとてもよく調べ、自信をもって自分の言葉で発表していた。子供たちを見るという一方通行ではなく、子供たちから質問するなど、やりとりを通して子供と関わることができる企画がとても良かった。(黒瀬委員)
- ・ 学習成果発表会は発表するだけでなく、対話形式の学びがとても素晴らしかった。金指小での取組を便りやブログなどでもっと情報発信していくことで、多くの人の目に留まるのではないかと。(菊地委員)
- ・ 学校支援ボランティアに参加してくれる方の様子や感想を情報発信していくことで、学校に興味をもって「参加してみよう」と思う方がいるのではないかと。(黒瀬委員)

(2) 令和4年度学校評価について

議長の指示により、教務から学校関係者評価について結果と考察について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 授業の後、「『次は〇〇を調べたい』や『もっと〇〇を頑張りたい』と、考えることができた。」の質問について、保護者は、『あまりそう思わない。』割合が高い。家庭の中で、何かを調べようとする時、かつてとは違い、タブレットなどで即時的に調べる事ができるが、子供たちの変化はあるのか。(巨島委員)
- ・ 保護者からすると学習に関することについて調べる姿はあまり見られていないのではないかと。また、我が子により良くなってほしいという願いもある。(教務)
- ・ 教職員の評価が高いので、実情を踏まえた上で接してくれているように感じる。(青嶋委員)
- ・ 今までは与えられた課題をやるのが主流だったが、これからは学校側も調べる課題を出すことで、子供たちがタブレットや本などで調べる習慣がつくようになるとよい。(黒瀬委員)
- ・ 子供たちは、一つのことをやり遂げる達成感から、次は〇〇を頑張りたいと考え、前向きになれることが積み重なっていけばよい。苦手なことができるようになると、自分が達成感を持ち自分を認め次に進むといったものになる。(内山委員)
- ・ きれいな言葉や正しい言葉遣いについて、教職員の評価が低くなっているが、先生や

高学年への言葉遣いに対しての評価なのか。(菊地委員)

- ・ 昨年度と比較すると言葉遣いについて、教職員の評価が低くなっている。暴言はないが、呼び捨てが目立つこともあり、教職員の中でも触れる時がある。(教務)
- ・ 保護者に対して、講演会等で正しい言葉遣いやマナーを伝える機会があるとよい。挨拶は、コロナ禍ということもあるが、昔と比べると声が小さく残念に思う。(菊地委員)
- ・ 先生に対する言葉遣いはどうか。(宮澤委員)
- ・ 先生方に対する言葉遣いは問題ないと思う。(教務)
- ・ 学年の発達段階により、言葉遣いも変わっていくので安心感はある。挨拶については、こちらから挨拶しないと挨拶がない。こちらからは、声を掛けづらく難しい。(宮澤委員)
- ・ 登校時の挨拶の音が小さく感じる。言葉遣いについて、子供たちが時と場合に応じた言葉遣いができるような指導をしてもらいたい。(青嶋委員)
- ・ 言葉は相手との関わりの中で成り立ち、人と人との関わりの中では一番大切なもの。言葉遣いの正しさは相手の受け取り方により違う。言葉は心で思っても相手には伝わらない。正しい言葉で自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを分かるような言葉の大切さを子供たちに覚えてもらいたい。(内山委員)
- ・ 今の時代は不審者対応もあり、知らない人に声を掛けづらく挨拶も躊躇してしまう。コロナ禍ならではの挨拶として、マスクをしていても目元の笑顔から始まるコミュニケーションもあるように感じる。(巨島委員)

(3) 令和5年度の学校運営の基本方針について

議長の指示により、校長から令和5年度学校運営基本方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 創立150周年記念は、家庭・地域の連携を地域の方が知り、学校に関心をもってもらうよい機会である。そこで、地域の方々に金指地区の資料を求め展示を行い、地域の方に来校してもらうことで、より学校を身近に感じてもらえたらよい。(黒瀬委員)
- ・ 創立150周年記念のイベントなど具体的に決まっているのか。(青嶋委員)
- ・ 現時点では、運動会の中に地域の方が一緒に参加できる種目を入れたい。また、地域の方と話し合う場面を含めた学習成果発表会を行いたいと考えている。(校長)
- ・ 地域の方からお借りできる資料があれば、多目的室を使い、資料の展示をすることで地域の方が学校に来やすくなり、学校と関わってもらう良い機会になる。(校長)
- ・ 国旗掲揚ポールの修繕とプレート作成、「金指だいすき わくわくマップ」を現代版に更新して、子供たちだけでなく全戸配布を考えている。また、金指小を思い返してもらえそうな写真を交えた記念ファイルも全戸配布したい。(校長)
- ・ 創立150周年記念の積立金予算の中でテントの購入を考えている。(校長)
- ・ 小規模校の強みは非常に良いことで、他校ではできないことが金指小ではさまざまな活動を経験することができる。(巨島委員)
- ・ 来年度、創立150周年を迎える学校が約2万件あるが、全国、県、浜松市との連携があれば教えてほしい。(巨島委員)

- ・ 創立150周年に関して浜松市や学校の連携は特にはない。学校独自で実情に応じている。地域の方に喜んでもらえるような創立150周年記念にしたい。(校長)
- ・ 個に応じた指導は、集団の中で学習していると難しいが、学習の上では重要である。文章問題を理解するためには、読書が重要に関わってくる。(宮澤委員)
- ・ タブレットを効果的に活用とあるが、どういう教科にどのように使用しているのか。(黒瀬委員)
- ・ 各教科に使用している。ノートを見せ合うことなく、大型テレビで共有ができることで話し合いがしやすい。タッチペンを使い、画面に書くことや、絵を描くこともできる。写真を撮影して観察日記を書くことにも使用している。(教頭)
- ・ タブレット、ノート、教科書を使用することでそれぞれの良さの中で、子供たちが取捨選択できるようにしていく。自分で考え、試行錯誤する学習の展開にも繋がる。(教頭)
- ・ タブレットについては、浜松市が力を入れているので、他校での実例も共有することができ、校内研修も行っている。(校長)

協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

(4) 学校運営協議会の自己評価について

議長の指示により、宮澤会長から学校運営協議会の自己評価について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 「協議会＝ポイントウォーク」となってしまうことは避ける。教育目標と重点項目についての場になるよう全体的に視野を広げていきたい。(青嶋委員)
- ・ ポイントウォークをきっかけにボランティアの参画を広げ、仲間を増やし、地域の人の特技を金指小に活かしてもらうようになるとよい。(黒瀬委員)
- ・ 保護者は、どのようなボランティアがあり、どのような活動をしているかあまり知らない。ボランティアの方を増やすために、情報発信していくことで興味をもってくれる方がいるかもしれない。(菊地委員)
- ・ 朝活動の時間を利用して、地域の方と一緒に昔遊びをしてはどうか。(野沢委員)
- ・ ポイントウォークの出発時間、到着時間の待機時間に運動場で物を使わない昔遊びをしてはどうか。(黒瀬委員)
- ・ 地域学習を進めるに当たり、やりたい気持ちはあるが、地域の方との調整が難しい。(教頭)
- ・ 学校側がどのようなボランティアが必要なのか分かれると協力することができる。(黒瀬委員)
- ・ ボランティアに参加した方の事故やケガの保障はどうなっているのか。保障がきちんとされていれば、ボランティアを募りやすい。(青嶋委員)
- ・ 学校に関わるボランティアの方については、浜松市全体で保障に加入している。万が一、事故などが起きた場合は、ボランティア名簿を提出することで保障される。学校ボランティア登録は必要。手続きは不要だが学校側が住所と名前等を把握しておく必要が

ある。(教頭)

- ・ 先生方からの困っていることや、教えてほしいことなどの要望があれば直接、手順を踏まずにできることがあるとよい。回覧板では、学校での教育活動のうち、ほんの一部しか見えていないので具体的なことが伝わらない。どうしたら伝わるのか考えていかなければならない。(内山委員)
- ・ ボランティアの方を増やすには、回覧板よりも委員の方々や知り合いから伝え聞く方が参加しやすいのではないか。(教頭)
- ・ 現時点で、来年度の地域学習の計画をしている。第1回の協議会では、具体的にいつ、どのようなボランティアの方が必要なのか提示したい。(教頭)
- ・ 委員の方々には、学校が取り組みたいと思っていることを叶えるため、地域の方に協力してもらえよう繋いでいただけると有難い。(校長)
- ・ 子供たちが地域の人と関わる場面を増やすことで、顔見知りになり、挨拶ができるようになればよい。(校長)

報告

○いじめ防止等のための基本的な方針について

教頭からいじめ防止等のための基本的な方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 地域や家庭との連携について、学校運営協議会の活用とは具体的にどういうことか。(青嶋委員)
- ・ 事案が起きた場合には、対応策を共有し、委員の方には地域と学校の間に入る立場になっていただきたい。(教頭)

○夢育やらまいか事業（CS加算分）の報告について

教頭から、夢育やらまいか事業（CS加算分）の報告について説明があり、主に地域に関する学習の講師謝礼と「かなさしポイントウォーク」に支出したとの報告があった。

○来年度の取組及び協議会開催予定日について

教頭から令和5年度学校運営協議会の開催予定日と議題内容について説明をした。